

2022年2月 イーアイデム会員対象アンケート結果

TOPICS

内定承諾の相談相手
「相談する」割合が最も高かったのは
「配偶者」の75.5%

株式会社アイデム
東日本事業本部 データリサーチチーム

調査名

- ▶【イーアイデム会員限定】お仕事探しに関するアンケート

調査目的

- ▶現在の求職者の状況を把握し、今後のサービス向上・商品開発につなげる

調査対象

- ▶総合求人サイト「イーアイデム」の会員で、2022/02/01～2022/02/28の期間にイーアイデムから何らかの求人に応募した人

調査期間

- ▶2022/02/02～2022/03/05（32日間）

調査方法

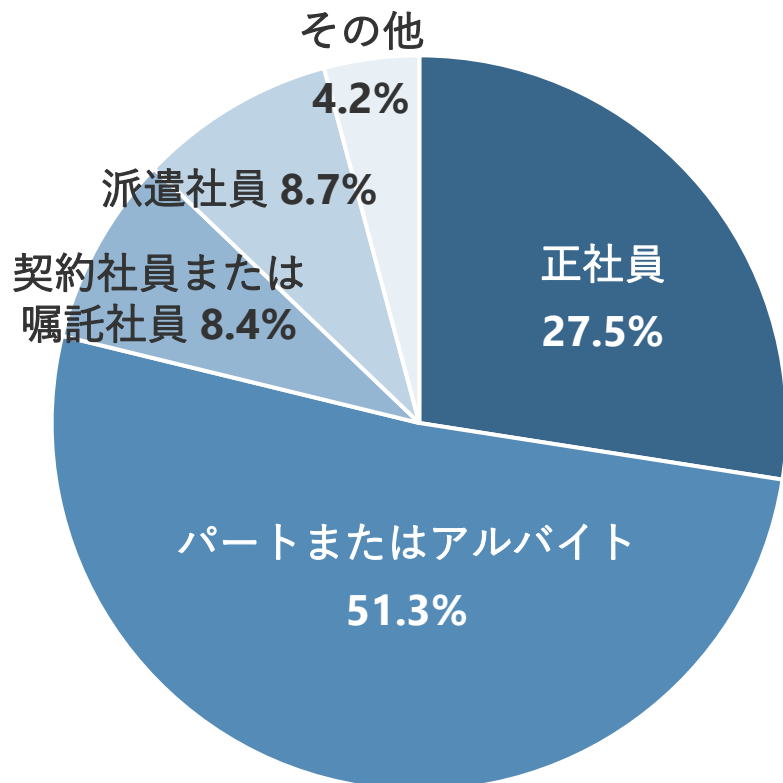
- ▶インターネットリサーチ

有効回答数

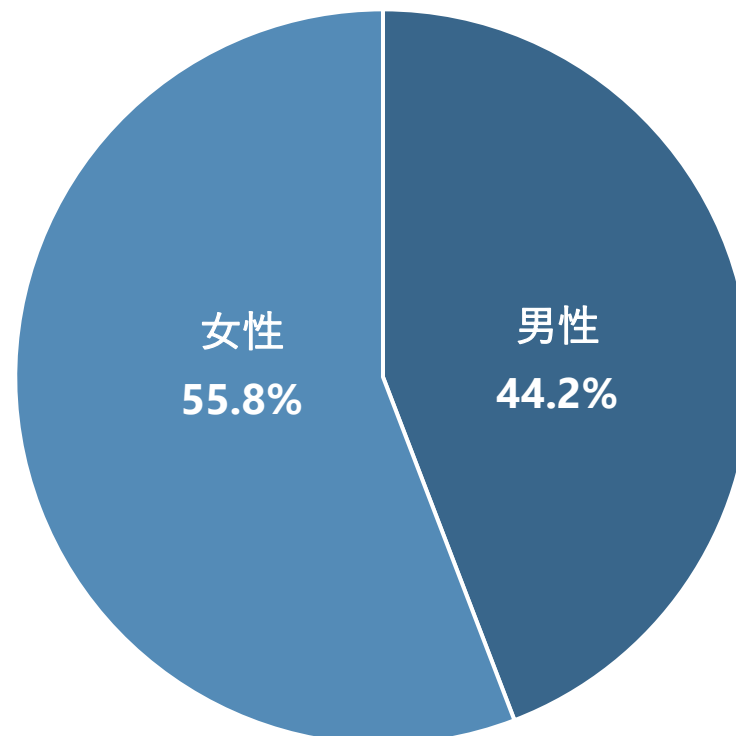
- ▶335件

※調査結果は四捨五入のために合計が100%にならない場合があります

希望する雇用形態



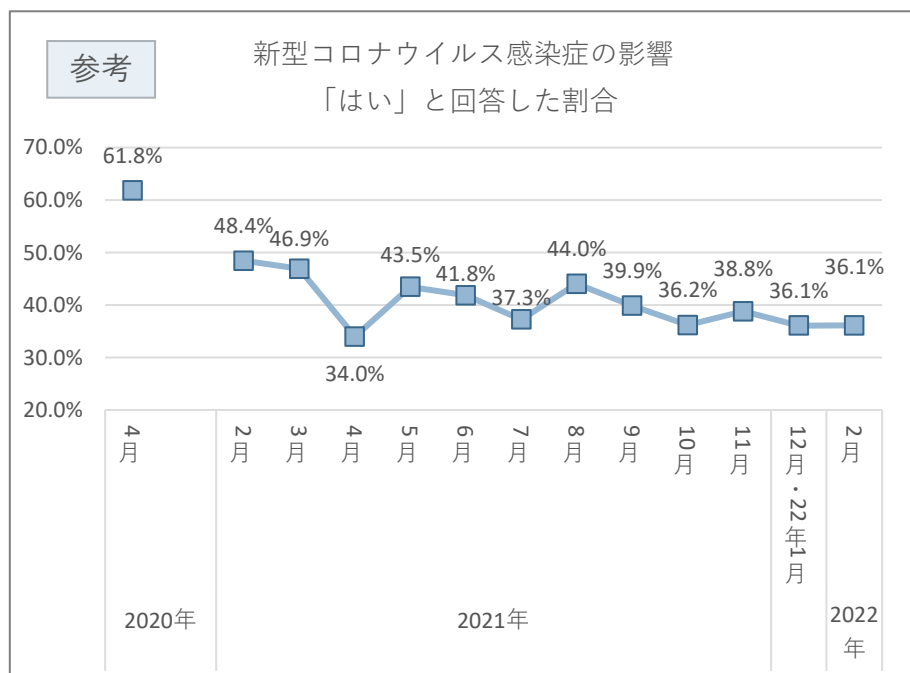
性別



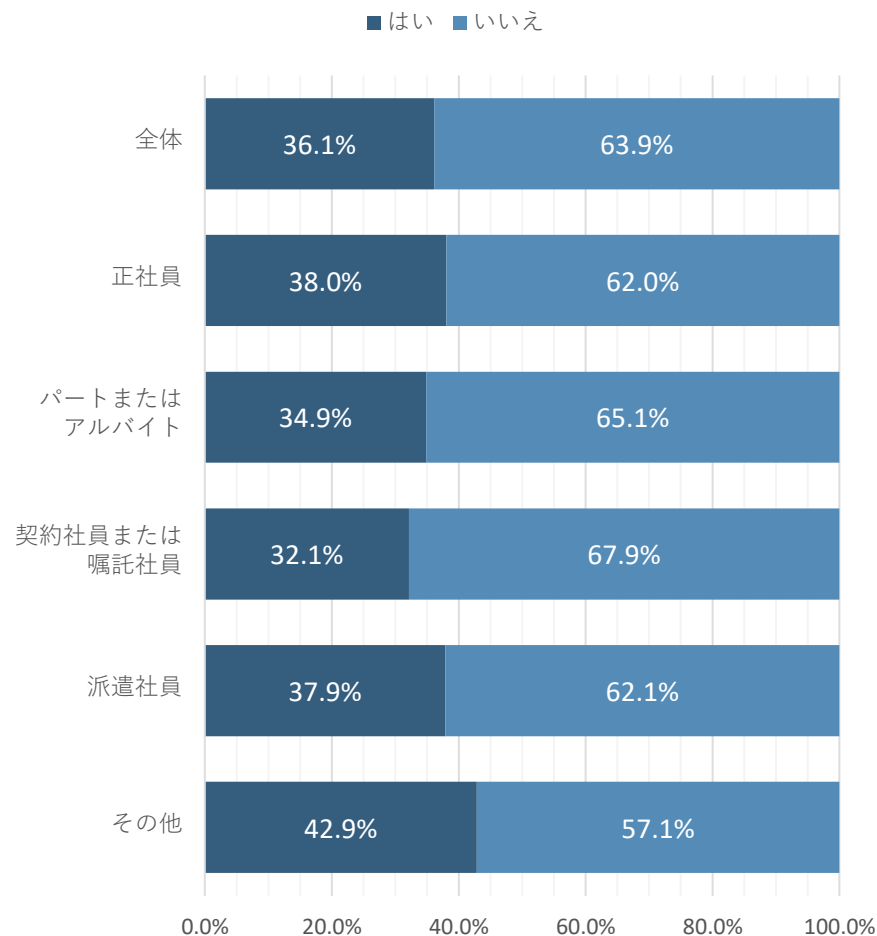
イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、今回仕事探しをしている理由に「新型コロナウイルス感染症の影響」は関連しているかきいた。

全体で36.1%が「はい」と回答し、前回調査（2022年2月発表）から変わらなかった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて仕事探しをしていた割合は4割を下回った。

希望雇用形態別に影響の有無をみると、「はい」は「契約社員または嘱託社員」の32.1%が最も低い割合だが、希望の雇用形態ごとに大きな差は開かなかった。



今回仕事探しをしている理由には、新型コロナウイルス感染症の影響は関連していますか。

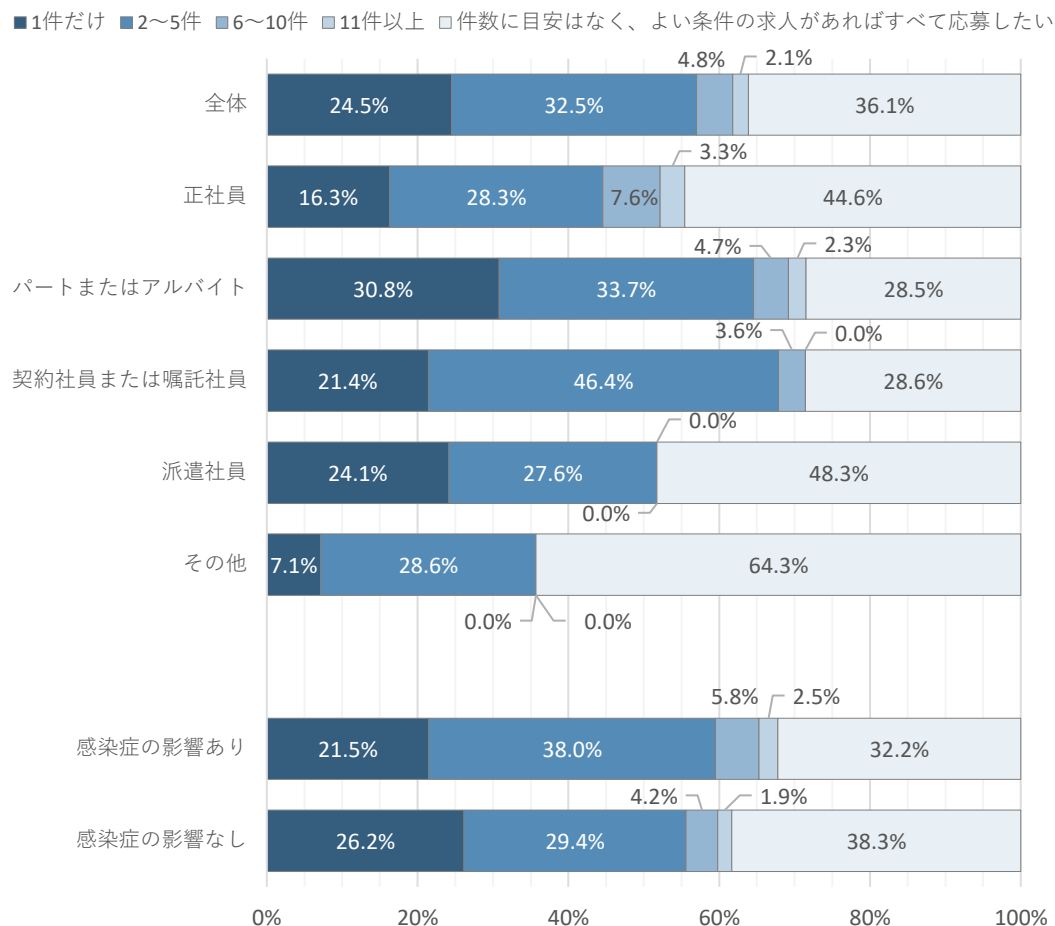


イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、今回の求職活動期間の中で、求人に応募する件数の目安があるかどうか聞いた。全体では、「よい条件の求人があればすべて応募したい」が最も多く36.1%、次いで「2～5件」が32.5%、「1件だけ」が24.5%、「6～10件」が4.8%、「11件以上」が2.1%となった。「1件だけ」以外を選んだ割合は全体の4分の3程度となり、多くの人が多数応募を前提に活動している。

希望雇用形態別にみると、「正社員」では、「件数に目安はなく、よい条件の求人があればすべて応募したい」の割合は44.6%となった。「パートまたはアルバイト」では「1件だけ」が30.8%、「2～5件」が33.7%で、応募件数に目安を設けて活動している人が多い。

仕事探しにおける新型コロナウイルス感染症の影響の有無（P4参照）別にみると、「感染症の影響あり」の人では「2～5件」が38.0%で、「感染症の影響なし」の人の29.4%より8.6pt多くなっている。

今回の求職活動期間の中で、
およそ何件ほど応募しようと思いますか。

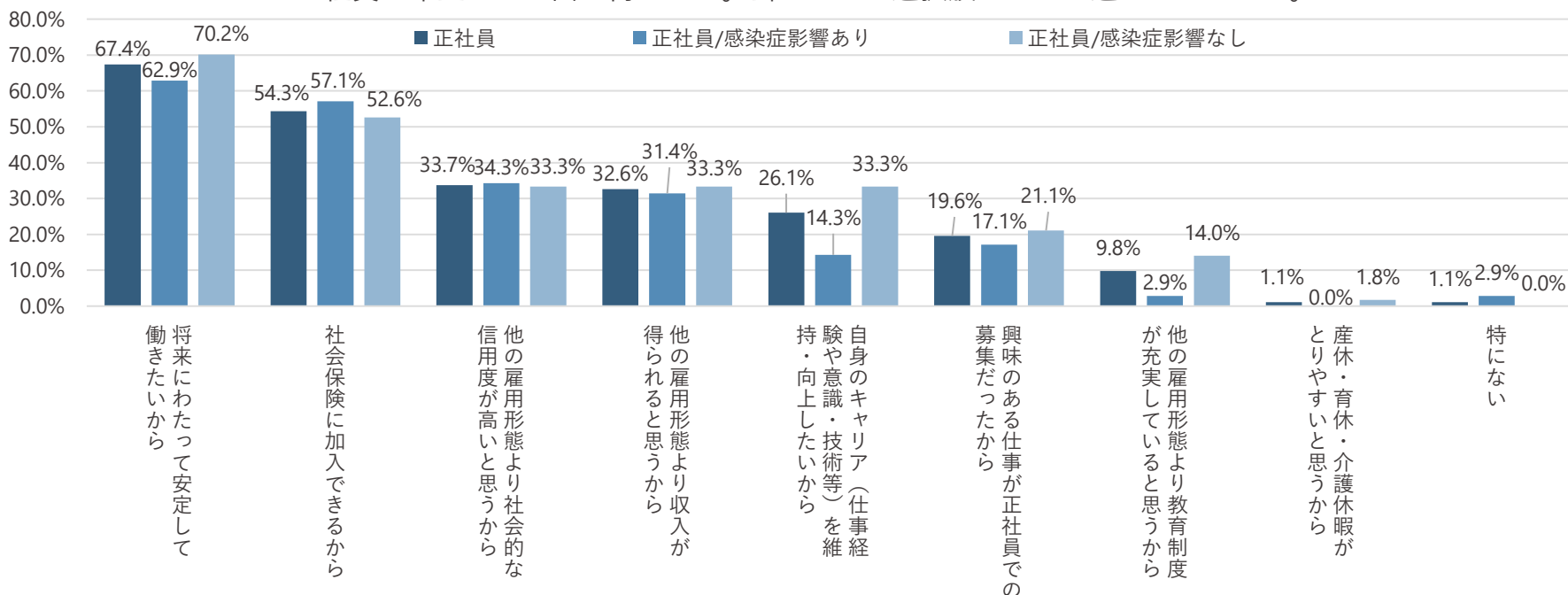


イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、なぜ正社員を希望するのかを聞いた（複数回答）。最も多かったのは「将来にわたって安定して働きたいから」で67.4%、次いで「社会保険に加入できるから」が54.3%、「他の雇用形態より社会的な信用度が高いと思うから」が33.7%となっている。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）との関連をみると、「感染症影響あり」の人で「感染症影響なし」の人よりも5pt以上高くなった項目は見られない。

一方、「感染症影響なし」の人は「感染症影響あり」の人よりも「自身のキャリア（仕事経験や意識・技術等）を維持・向上したいから」が19.0pt、「他の雇用形態より教育制度が充実していると思うから」が11.1pt、「将来にわたって安定して働きたいから」が7.3pt高かった。長く腰を据えられる職場を探している人が多いようだ。

正社員を希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



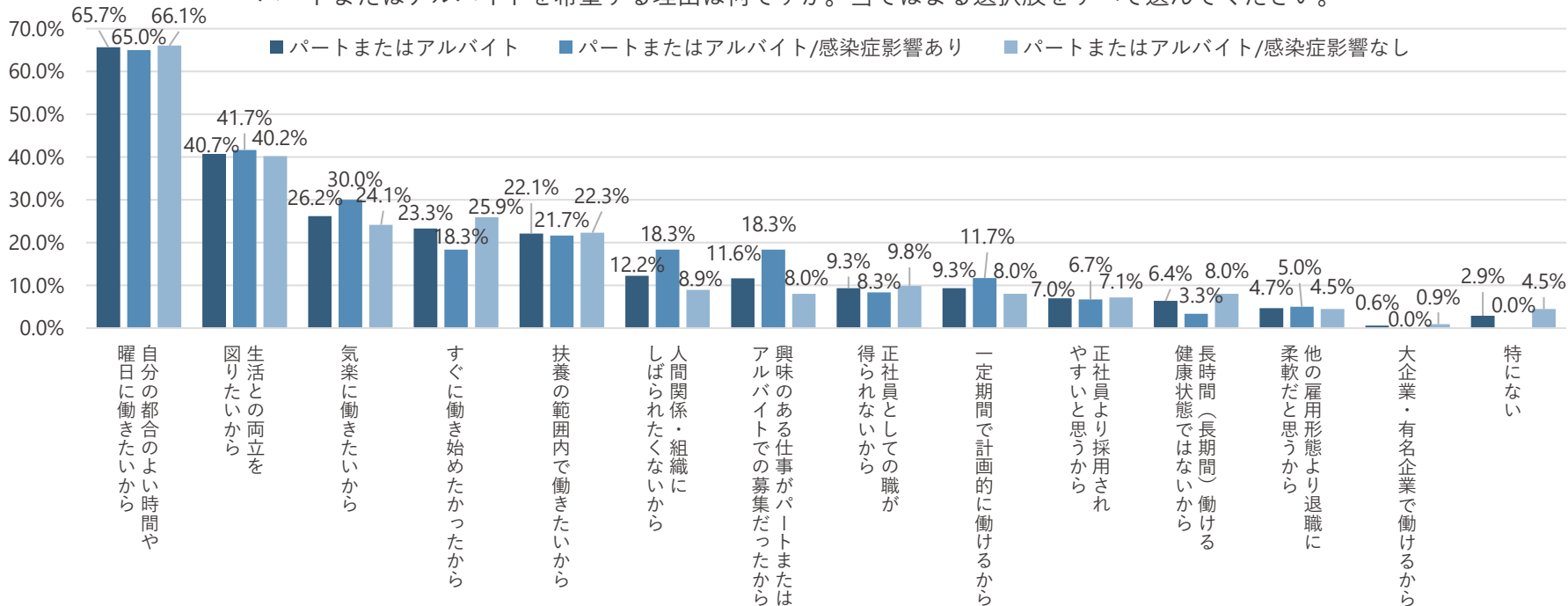
パート・アルバイトを希望する理由

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイトを希望する人に、なぜその雇用形態を希望するのかを聞いた（複数回答）。最も多かったのは「自分の都合の良い時間や曜日に働きたいから」で65.7%、次いで「生活との両立を図りたいから」が40.7%、「気楽に働きたいから」が26.2%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）について、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人と比べて、「興味のある仕事がパートまたはアルバイトでの募集だったから」が10.3pt、「人間関係・組織にしばらく働いたくないから」が9.4pt、「気楽に働きたいから」が5.9pt高くなった。気楽さを優先したり、しがらみを避けようとするところから、心に負担の少ない形で就業できる場所を探している人が多いようだ。

一方、「感染症影響なし」の人は「感染症影響あり」の人よりも「すぐに働き始めたかったから」が7.6pt高くなった。

パートまたはアルバイトを希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



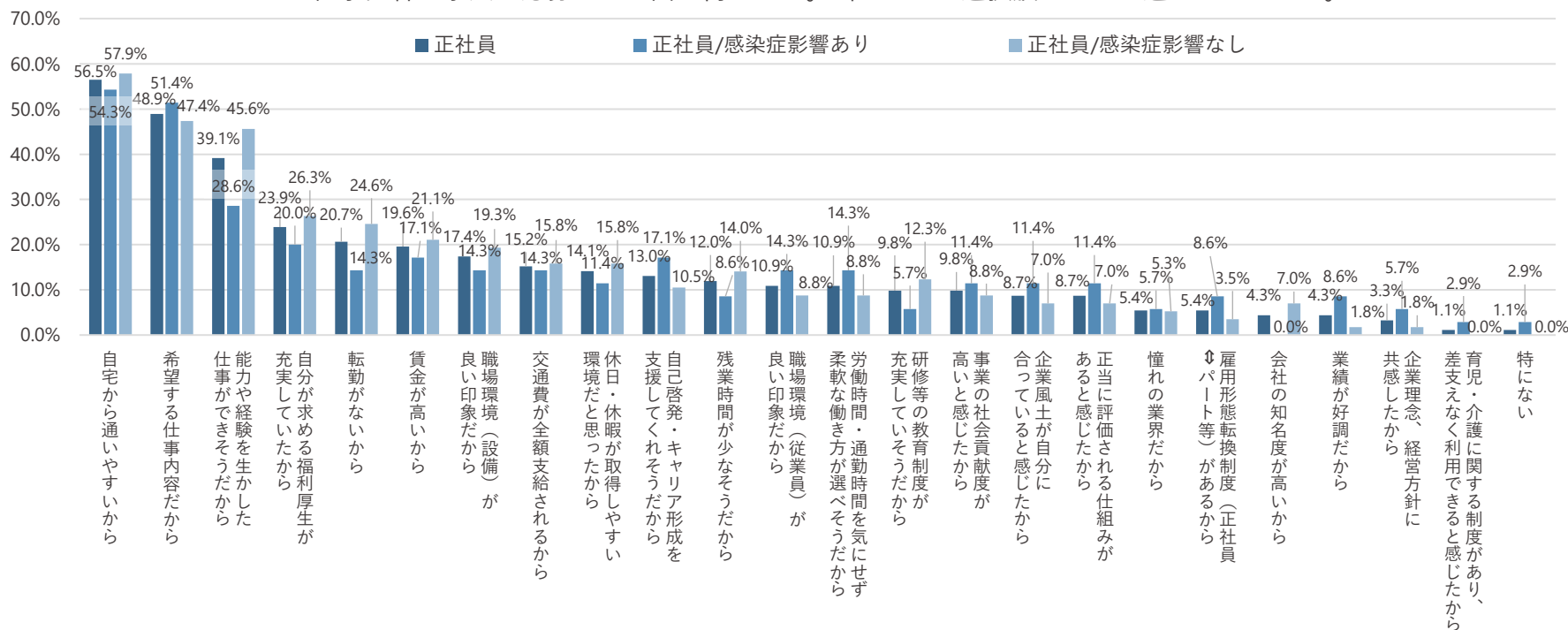
求人に応募した理由（正社員希望の場合）

イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」の56.5%、次いで「希望する仕事内容だから」が48.9%、「能力や経験を生かした仕事ができそうだから」が39.1%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）との関係を見ると、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「業績が好調だから」が6.8pt、「自己啓発・キャリア形成を支援してくれるから」が6.6pt、「職場環境（従業員）が良い印象だから」が5.5pt高かった。

「感染症影響なし」の人では、「感染症影響あり」の人よりも「能力や経験を生かした仕事ができそうだから」が17.0pt、「転職が無いから」が10.3pt、「会社の知名度が高いから」が7.0pt高かった。特に能力や経験を活かせる場所を探している人が多く、約半数の人が求人応募の理由として挙げていた。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



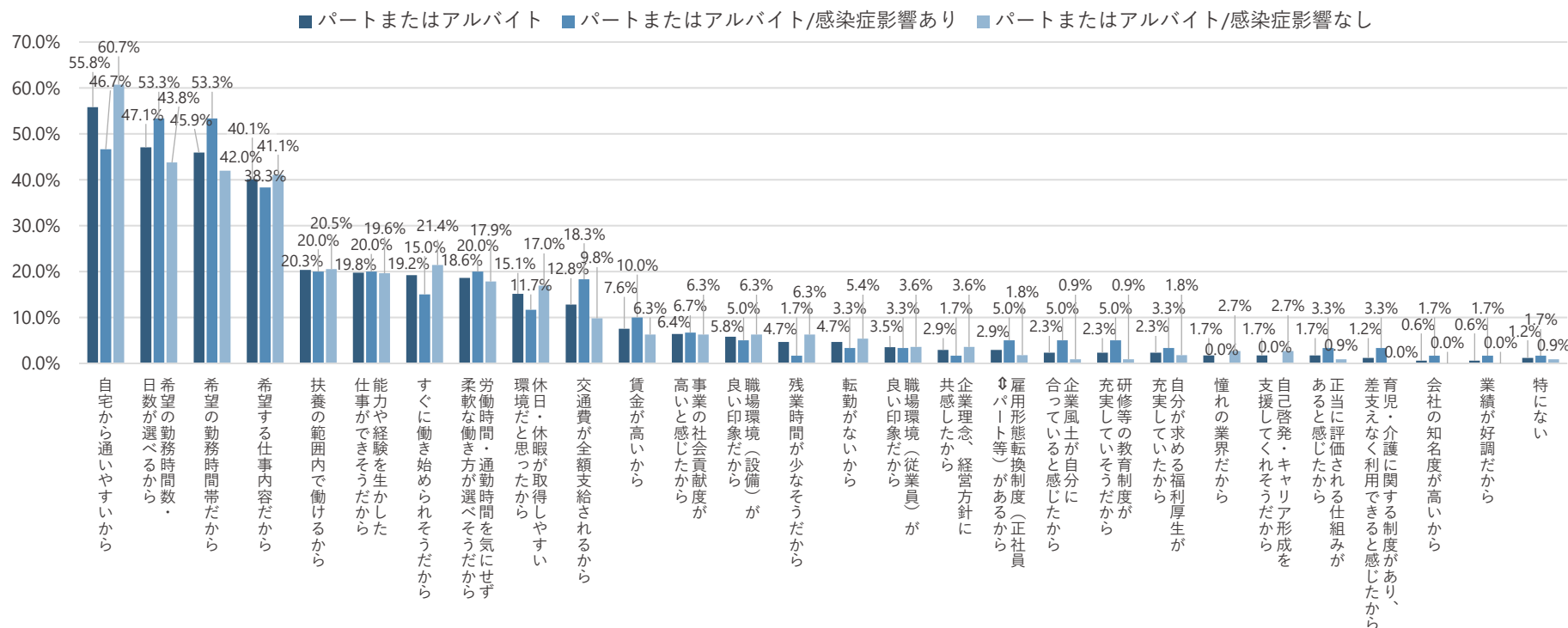
求人に応募した理由（パート・アルバイト希望の場合）

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイト雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」で55.8%、次いで「希望の勤務時間数・日数が選べるから」が47.1%、「希望の勤務時間帯だから」が45.9%となった。

仕事探しにおける新型コロナウイルスの影響の有無（P4参照）について、「感染症影響あり」の人は「感染症影響なし」の人よりも「希望の勤務時間帯だから」が11.3pt、「希望の勤務時間数・日数が選べるから」が9.5pt、「交通費が全額支給されるから」が8.5pt高くなった。日時に融通の利きやすい職場を希望する人が、より多くなっている。

「感染症影響なし」の人は、「感染症影響あり」の人よりも「自宅から通いやすいから」が14.0pt、「すぐに働き始められそうだから」が6.4pt、「休日・休暇が取得しやすい環境だと思ったから」が5.3pt高かった。自宅からの通いやすさは総合してみても最も多くの人に応募理由に挙げているものだが、「感染症影響なし」の人では6割を超えていた。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。

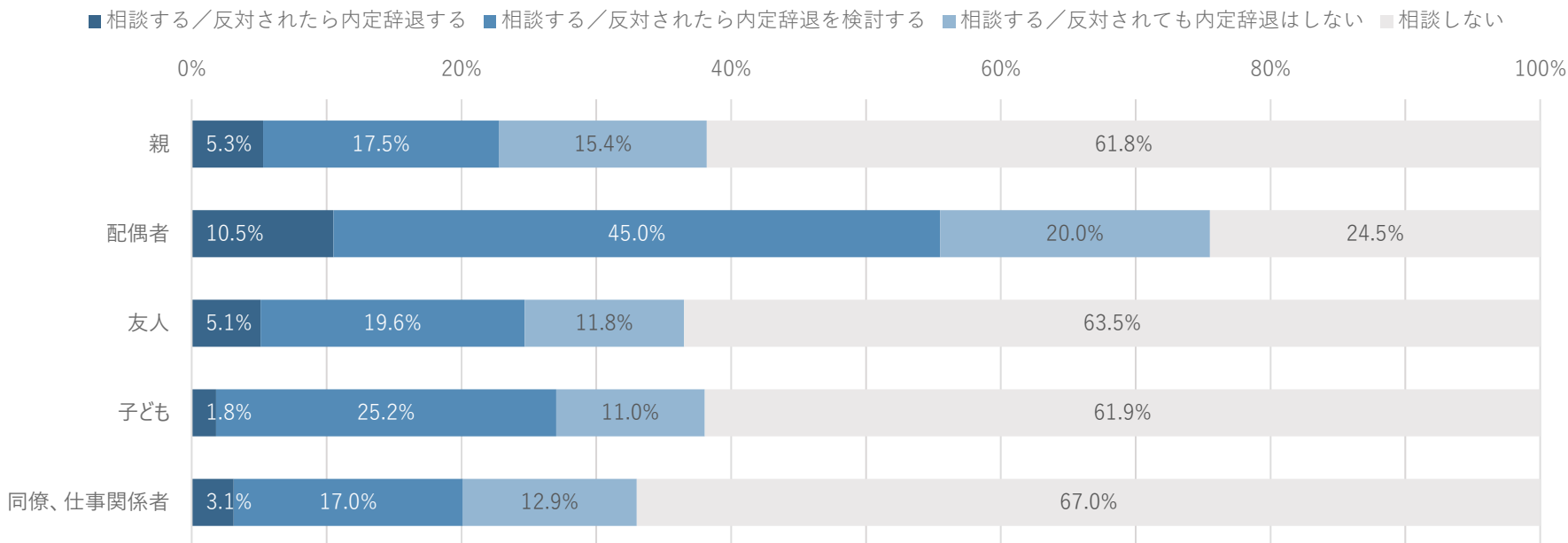


イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、就職・転職の内定が出た後、内定承諾の相談の有無、相談後の対応について聞いた。なお、相談対象がない場合を除いて集計している。

相談対象が「親」「配偶者」「友人」「子ども」「同僚、仕事関係者」のうち、「相談する」割合が最も高かったのは「配偶者」の75.5%だった。配偶者の場合、生活費をはじめとした資金面での共有事項や、勤務地によっては転居の可能性もあり、多くの人々が「相談する」ことを選ぶようだ。相談した結果、反対された場合「内定辞退を検討する」と回答した割合は、全体計で45.0%、「相談しない」の回答を除いて集計をすると59.6%と約6割となった。配偶者の意見が内定承諾の判断に大きく関わっているようだ。

相談対象として挙げた中で、最も「相談しない」割合が高かったのは「同僚、仕事関係者」で67.0%だった。立ち去ろうとする場所に関わっている人のため、相談者の対象としてはあまり考えられていないようだ。同僚や会社側から見れば、相談なしに突然退職というケースは少なくないだろう。

就職・転職の内定が出た後、その内定を承諾するかについて相談する相手はいますか。

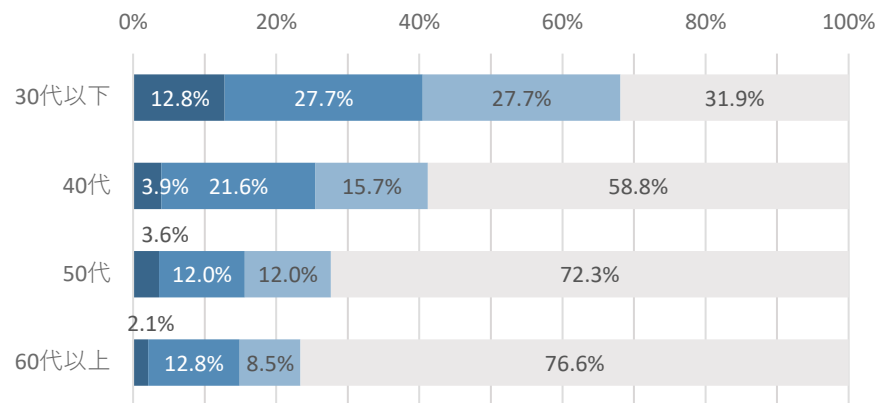


内定承諾の相談相手について、転職市場では「嫁ブロック」や「オヤカク」といった言葉がある。相談相手が配偶者の場合、性別に相談の有無をみると、「相談する/しない」に大きな差は現れなかったが、相談して反対されたとき「辞退する」と回答した割合は「男性」（13.8%）の方が高かった。

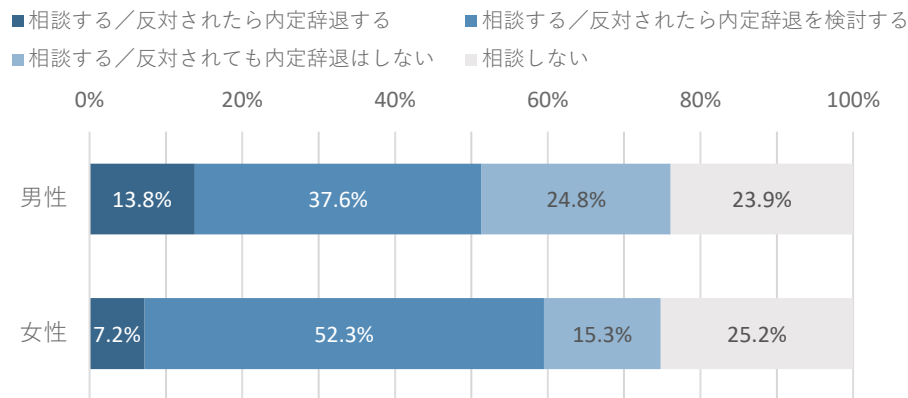
相談相手が親の場合、年代別に相談の有無をみると、「30代以下」ではおよそ7割が「相談する」と回答した。反対されたとき「辞退する」と回答した割合は12.8%、「辞退を検討する」は27.7%で、親の判断が大きくかかわっていることが伺える。

なお、「30代以下」の人では全体で低かった「同僚、仕事関係者」への相談割合も高く、半数を超える結果となった。しかしながら、「相談しない」回答者を除いて集計すると、「相談する」ものの、そのうち「反対されても内定辞退はしない」回答者は55.5%にも上る。

内定相談対象：親の場合（年代別）



内定相談対象：配偶者の場合（性別）



内定相談対象：同僚、仕事関係者の場合（年代別）

